

資料

群馬県におけるタガメの記録の整理と新たな採集記録
(カメムシ目：コオイムシ科)

茶珍 護¹・金杉隆雄¹

¹群馬県立ぐんま昆虫の森：〒376-0132 群馬県桐生市新里町鶴ヶ谷460-1
(chachin-m@pref.gunma.lg.jp)

キーワード：水生半翅類，タガメ，群馬県，追加記録

Organize and new collection records of *Kirkaldyia deyrolli* (Vuillefroy, 1864) in
Gunma Prefecture (Hemiptera: Belostomatidae)

CHACHIN Mamoru¹ and KANASUGI Takao¹

¹Gunma Insect World: 460-1 Tsurugaya, Niisato cho, Kiryu, Gunma 376-0132, Japan
(chachin-m@pref.gunma.lg.jp)

Key Words: Aquatic Hemiptera, Giant water bug, *Kirkaldyia deyrolli*, Gunma Prefecture, Additional record

はじめに

日本最大の水生昆虫であるタガメ *Kirkaldyia deyrolli* (カメムシ目：コオイムシ科) は、生息地の消滅、農薬の影響や水田農法の変化、外来種等の要因で近年、全国的に個体数が激減している種である(渡部・大庭, 2018). 環境省レッドリスト2020において絶滅危惧II類と評価され(環境省, 2020)、種の保存法による特定第二種国内希少野生動植物種にも指定されている。また群馬県レッドデータブック2012改訂版では絶滅危惧I類(群馬県, 2012)として掲載されている。

宮原(1990)によると群馬県内におけるタガメの状況として、「かつてはたくさん生息し、夜間よく灯火に飛来した。激減したのは戦後になってのことで、農薬等の大量使用が原因と言われている。」と減少理由が述べられており、さらに「遊水池等の減少、水路の三面コンクリート化など生息水域そのものが奪われている地域では、今後の見通しは決して明るくない。低湿地で水生植物が生い茂るような場所が各地で埋め立てられ、宅地化されたり公園や運動場に変わっている。」とタガメの生息環境の減少が著しいことも原因であるとしている。いずれにしても群馬県におけるタガメの記録は非常に少なく、採集データなどを伴った報告はほとんど見られない。

今回、群馬県内におけるタガメの記録を整理するととも

に、群馬県立自然史博物館や個人所蔵の標本記録および近年、東毛地域において採集された記録を併せて報告する。

なお、東毛地域で得られた標本は、群馬県立ぐんま昆虫の森で保管している。また標本データの末尾にある略号は収蔵機関の標本登録番号である(GMNH-II-*****：群馬県立自然史博物館；Hem-*****：群馬県立ぐんま昆虫の森)。

文献による群馬県内のタガメの記録

文献記録として確認できた群馬県内のタガメの記録は、勢多郡北橋村(現渋川市北橋町)の木曾三社神社(片山・土屋, 1977)、吾妻郡嬭恋村のバラギ湖(渋川女子高校生物部, 1980)、富岡市のため池(布施ほか, 2002)であった。このうち北橋村の記録は採集データなどが記されておらず、バラギ湖の記録についてはその基となった文献が入手が困難なためデータ等の確認できず詳細が不明である。富岡市の記録については、7月に成虫の目撃、4月に幼虫の脱皮殻が確認されたとの記述があり、特に4月の脱皮殻の記録については、初夏に繁殖して成虫越冬を行うタガメの生態と矛盾があることから記録自体に疑問が残る。上記の記録はいずれも証拠標本などが確認できず、科学的な記録としての再現性に乏しく信頼性が不十分な情報と言わざるを得ない。

群馬県立自然史博物館に収蔵されているタガメ標本

群馬県立自然史博物館にはタガメ標本の収蔵があり、調査を行ったところ液浸標本が確認された(図1, 2)。採集データおよび自然史博物館の標本番号は以下のとおりである。

・3exs. (幼虫), 群馬県前橋市亀里町, 片山満秋採集, 26-VII-1976. (GMNH-II-0028654)

確認されたタガメ幼虫標本は, 2齢, 3齢, 5齢(終齢)とみられ, 採集場所で繁殖していたと推察される。採集された地域は現在も水田などが広がっているが, その後の記録はなく, 圃場整備や周辺地域の開発も進んでおり, 採集後45年が経過した現在では生息している可能性は極めて低いと言える。

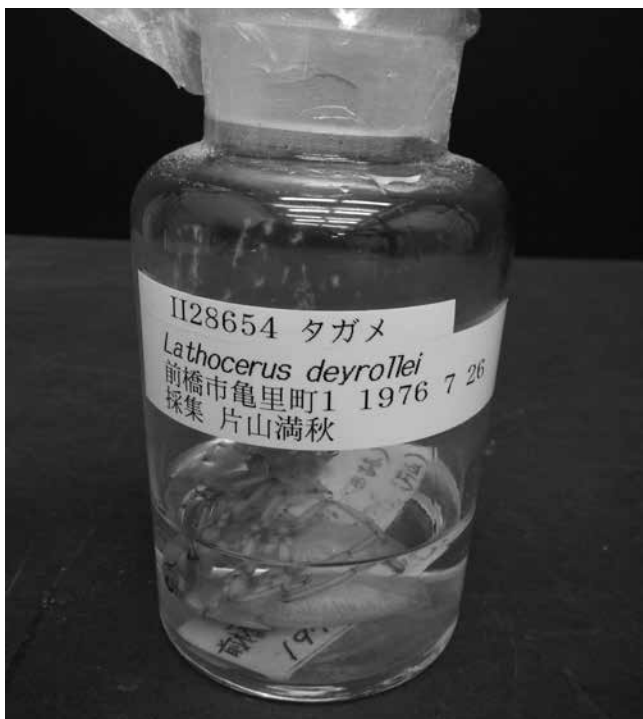


図1. 群馬県立自然史博物館収蔵のタガメ標本の入ったサンプル瓶



図2. 群馬県立自然史博物館収蔵のタガメ標本とそのラベル

個人所蔵のタガメ標本

1960年代から70年代の記録として, 伊勢崎市在住の須田亨氏所蔵の未発表のタガメ標本があるので, あわせて記録しておく。

- ・1♀, 群馬県伊勢崎市太田町, 須田亨採集, 14-VIII-1969. 橋の灯火に飛来した個体を採集した。
- ・1♂, 群馬県前橋市柏倉町, 須田亨採集, 16-VI-1979. 水銀灯に飛来した個体を捕獲した。
- ・1♂, 群馬県前橋市下小出町, 村田元彦採集, 1979. なお標本ラベルには, 採集個体の死んだ日の21-IX-1979と記されており, 採集日はその年の夏頃と思われる。

近年の東毛地域における採集記録と採集状況

- ・1♀, 群馬県邑楽郡板倉町西岡, 野坂隆採集, 26-VI-2016. (Hem-001046) (図3) 公民館の灯火に飛来した個体を採集した。
- ・1♀, 群馬県館林市若宮町, 秋本曜山採集, 13-VI-2021. (Hem-001047) (図4) 館林市立第三小学校の児童が, 加法師川の水路にて成虫を捕獲した。
- ・1ex. (幼虫), 群馬県邑楽郡明和町下江黒, 小林駿介採集, 26-VII-2021. (Hem-001048) (図5) 館林市立第三小学校の児童が, 水田脇の水路で幼虫を捕獲した。
- ・1♂, 群馬県太田市飯田町, 長谷川和哉採集, 2-VIII-2021. ガソリンスタンドの照明に飛来した成虫を捕獲した。なお, その他の東毛地域の記録として, 1978年5月24日に館林市大島町にて灯火に飛来した記録がある(内山, 2020)。また, 2013年7月18日に館林市大島町の館林市第四小学校北歩道橋で成虫が採集されている(新井慎一氏私信)。

まとめ

群馬県でのタガメの記録を, 著者らが確認できた文献および標本を基にまとめた。これまでの標本記録をみると, 1970年代を最後に近年まで記録がないことが分かる。近年になって東毛地域で本種が見つかっており, 特に2021年には相次いで確認された。幼虫も採集されており, この地域での繁殖も考えられるが, 今回確認された場所は人家近くの三面コンクリートの水路で, 周辺の環境をみても本種の生育に適した場所とはいえない。タガメは飛翔力が高く,



図3. 邑楽郡板倉町産タガメ標本



図4. 館林市産タガメ標本



図5. 邑楽郡明和町産タガメ幼虫標本

群馬県に近接する栃木県小山市の記録（金杉，2013）もあることから，最近，東毛地域で見つかったタガメは近隣地域から飛来した可能性も考えられるが，飼育個体の逸出，放流の可能性も否定できず，今後の動向を注視すべきであろう。

謝辞

須田亨氏，内山裕司氏，野坂隆氏，秋本曜山氏，小林駿介氏，長谷川和哉氏，館林市立第三小学校教頭の新井慎一氏には，タガメの情報および標本を提供していただいた。群馬県立自然史博物館の高橋克之氏には同館が所蔵する標本の調査および公表に際して便宜をはかっていただいた。ここに深く感謝の意を表す。

引用文献等

- 布施英明・大森武昭・四十万智博・斎藤靖明(2002)：昆虫類．谷津田(西毛地域)学術調査報告書．群馬県，p.77-82.
- 群馬県(2012)：群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編2012改訂版．群馬県森林環境部自然環境課，161pp.
- 金杉隆雄(2013)：小山市におけるタガメの記録．昆虫，64：132.
- 片山満秋・土屋清善(1977)：木曾三社神社地域．良好な自然環境を有する地域学術調査報告書，(IV)．群馬県，p.159-161.
- 環境省(2020)：レッドリスト2020．[<https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf>] (閲覧日2021年11月11日)
- 宮原義男(1990)：タガメ．群馬県の貴重な自然 動物編，群馬県，p.166-167.
- 渋川女子高校生物部(1980)：清流(生物部部報)．渋川女子高校．
- 内山裕司(2020)：館林市に生息する水生・半水生半翅類.乱舞，25：7-12.
- 渡部晃平・大庭伸也(2018)：タガメが減少した要因—なぜ全国的に激減したのか?—．大庭伸也(編)水生半翅類の生物学．北隆館，東京，p.258-276.

